

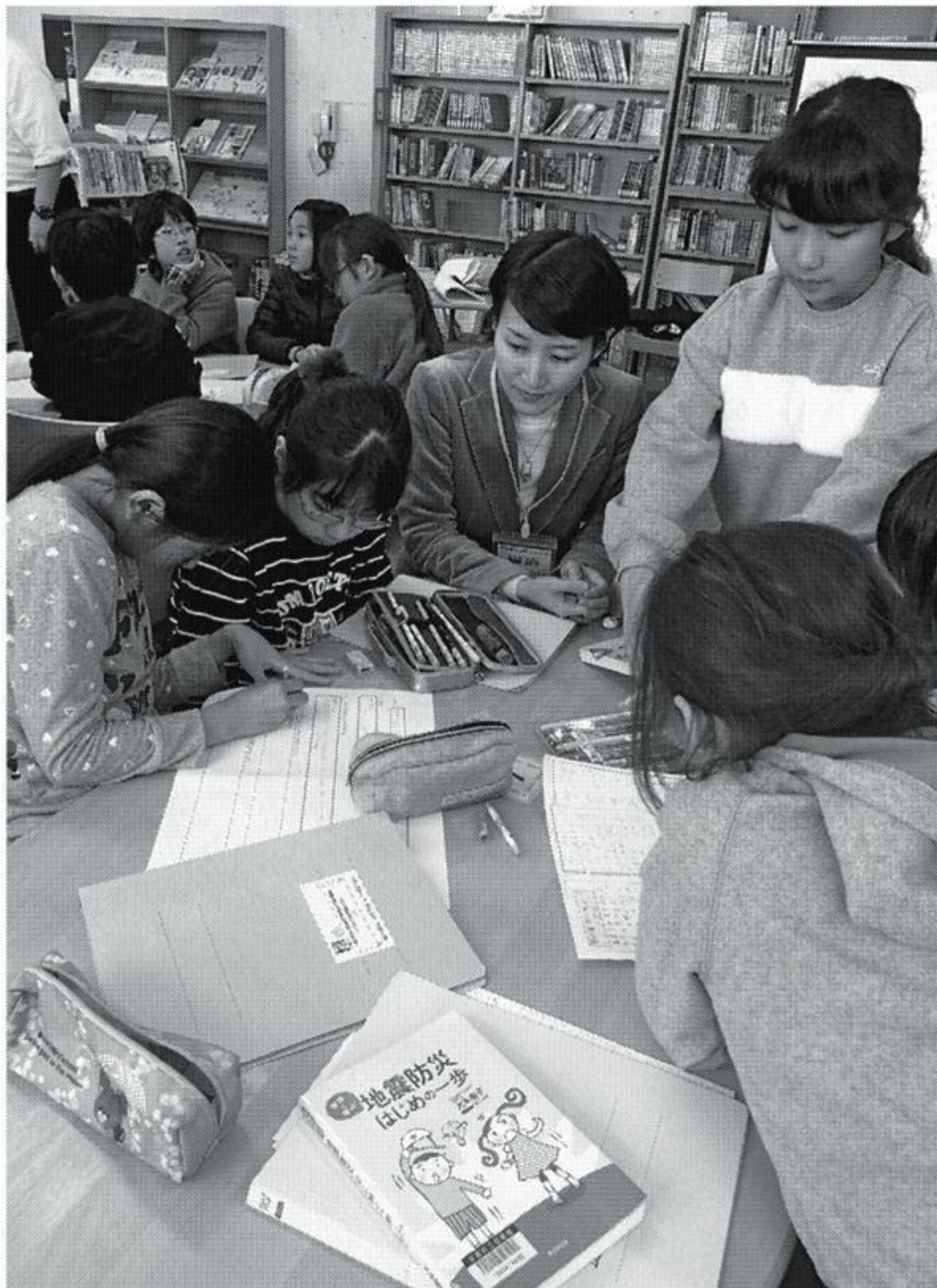
児童ら防災新聞づくり

大阪北部地震 半年

家庭での備えなどまとめ 高槻

今年6月の大阪北部地震から18日で半年。被災地で防災に関するさまざまな取り組みが進められているが、高槻市の市立松原小学校（神崎雅子校長）でも、4、5年生が防災意識を高めようと、3種類の防災新聞を作った。今後、地域に配布し、読んでもらうという。

子供たちがまちや社会の課題を分育の一環で、NPO法人「JA析し、解決に向けてチャレンジするE」（大阪市北区、坂野充代表理事）が、国立青少年教育振興機構の「シティズンシップ（市民性）教事」が、



新聞作りについての発表内容を相談する児童ら＝高槻市立松原小学校

「子どもゆめ基金」助成を受け、日本NIE（教育に新聞を活用する活動）学会研究委員会とともに実施した。

児童15人が3班に分かれて11月に制作を開始、テーマは6月の大阪北部地震に合わせ、「地震」に設定。新聞記事の書き方などを学んだあと高槻市危機管理室に取材し、新聞を作成した。児童はそれぞれ「子どもの防災新聞」、「シティズンシップで命を守る」と題し、家庭での備えやけが人の応急措置、日頃の心構えなどについてまとめた新聞を完成させた。

この日は3種類の新聞について、班ごとにその内容をプレゼン。「色分けで目立つようにした」などと紙面の狙いなどについて説明した。これについて関西大学社会安全学部の城下英行准教授（防災教育）のほか、産経、読売、毎日の新聞各社のNIE担当者が講評した。参加した同小の平井和奏さん（9）は「取材ではいろいろなことが聞けてよかったし、前より防災に関心を持つことができました」と話した。